

愛知民報

2019年10月6日第2463号

発行所 愛知民報社

〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目12番27号 愛知あかつき会館内

☎(052)251-2925 FAX(052)261-6063

定価 月 400円 郵送料160円 1部 100円

毎週日曜日発行(第5日曜日は休刊)

1966年7月31日第三種郵便物認可

週刊

愛知民報を
周りの人に



名古屋市港区へかけつけた京都民医連の人ら

二

風速最大50・2㍎、沿岸部など浸水地域は満潮時と重なって高潮350平方㍎。名古屋南部は10日間、海部の相当部分は11月まで水没したままだった。荒れ狂った。

1959年9月26日の夜から翌日未明にかけての伊勢湾台風。名古屋市内南区では、貯木場のラワン材がどつとあふれて堤防を突き破り、暗黒の中、一帯は屋根を没する高潮と巨大な流木の渦に、多数の死者をだした。

全県の被害は、死者3168人、行方不明92人、重軽傷者5万9045人、名古屋南部・海部郡・知多北部・津島・半田・碧南・幡豆郡・東三河の

しかし玉村は、まわりの被災者とともにたちあがった。

食糧がない、着るものもない……玉村は被災者のなかから青年を結集し、先頭にたつて区役所と交渉する。1日1食しかなかった主食の配給を2食にさせる。毛布を全員に1枚ずつ支給させる、早くも発生する赤痢に、避難所への医師常駐を要求する。

日本共産党愛知県委員会(中村宏委員長)

南区桜細胞は28日朝、胸まで水につかって区内の細胞の連絡にむかった。泥海と化したなかを道徳に住む明治細胞の芝野一三、そして大江の南にあった笠寺細胞の土屋博明の家までたどりつき、連絡をつける。両家とももちろん水没していた。

日本共産党中央委員会29日、全国に救援を訴える。また、救援の具体的対策を提案した。水害は天災ではなく、未然に防止しよう。対策をおこたつた政府・独占資本による人災であるとして、政府がその責任をはたすことを要求するとも門家である兼君伝一中



静岡県袋井市の「命山」を視察する山口議員(当時)

引き続き命を守る防災・減災に力を尽くします。

伊勢湾台風60年 圧巻 共産党の救援活動

9月26日は伊勢湾台風から60年。当時の共産党と民主団体の被災者救援活動を愛知民報社が1993年に発刊した『愛知・日本共産党物語』から紹介します。

立党の精神にたつて

と名古屋市委員会(小沢要委員長)は合同の対策委員会をつくり、28日に加藤進、中家啓が社会党、愛労評、国民救援会に共同の取り組みを申し入れる。中村宏、小沢要が愛知県、名古屋市当局に被災者の救援、復旧の対策について質問し要求した。

党災害対策委員会は、県・市当局とも総合的計画的対策をたてておらず、当面の対策に追われている実態に立つて、国・県が全責任を負う災害補償を要求するとともに、全党がただちに現地住民の要求と結びついて行動し、各民主団体と共同してとりくみをすすめることにした。

矢田細胞と名北細胞は、募金をあつめて6人がカンヅメ、マツチ、たばこ、正露丸、クレオソートをこのえて港区へ。学生会館の学生50人は、名古屋駅と栄で募金を訴え1万5千円をあつめて港センターへ支援に走った。

10月4日には、京都民医連の医師、看護婦が港区善光寺へ、東京立川民医連が南区観音町へ、大阪民医連が南区千鳥橋のたもとにテントを張って、それぞれ現地の医療活動に取り組んだ。

京都民医連の安井病院長が早朝6時半、港の避難所へ舟で到着する。医師、看護婦の献身的な活動は、下痢やかせ・肺炎に悩む人びとに光明を与えた。

「泥海に孤立する人々のなかへ白衣の医師団」と報道された。他党市会議員は水のかへはだれも来ない、医師も来ないなか、「愛知共産党の組織的救援活動は圧巻だった」と中村新聞社『あいちの政治史』(一九八一年が評する。『細胞』は現在の支部にあたる)

防災・減災に力つくす

山口清明 前名古屋市議 前名古屋港管理組合議員 談

伊勢湾台風から60年、東日本大震災から8年になります。愛知県発表の南海トラフ巨大地震の被害想定は、名古屋市中で死者5300人となつていきます。温暖化による異常気象が続くなかで、各地の災害から教訓を学び、災害対策に活かすことが重要です。

私は、名古屋市委員会と名古屋港管理組合で南海トラフの巨大地震に備えて津波を防止できる高さへの高潮防潮堤のかさ上げを繰り返し要求し、2013年度から名古屋港高潮防潮堤のかさ上げと補強がおこなわれています。

この防波堤は、伊勢湾台風で甚大な浸水被害が発生したために設けられました。しかし地盤沈下で堤防高が低下しています。さらには、2011年の東日本大震災における津波被害がありました。

浸水被害に備えるには堤防強化とともに浸水時に避難ができる高い場所を増やす必要があります。

私は、14年の市議会では港区の津波避難ビルの収容規模が足りないことを指摘して、静岡県袋井市にある避難高台「命山」を紹介し、名古屋市に人工の高台を増やすよう要求しました。17年度に予算が付き、現在建設工事が進んでいます。

課題はまだたくさんあります。私は議会では、①名古屋市の風力測定は市内1カ所のみで増設が必要②暴風の屋根被害に対応するブルーシートを備蓄すること③一部損壊住宅も対象とする住宅再建支援制度が必要④コンテナ落下や漂流防止など港湾エリアの特別対策などを指摘してきました。

愛知民報『愛知・日本共産党物語』

『愛知・日本共産党物語』は党創立70周年を記念して当時の愛知民報(週刊)に連載された「物語」シリーズを1993年に単行本(頒価1800円)にしたもの。現在絶版。